



USBメモリにセキュリティ対策

小さくて持ち運びが楽で使い勝手がよいUSBメモリ。1個と言わず、複数個を使い分けている方も多いのではないのでしょうか。



USBメモリとは

USBメモリが日本に登場したのは2000年のことでした。

当時はドライバのインストールが必要であるなど使用するための準備が必要でしたが、現在はほとんどがUSBマス・ストレージ(共通ドライバ)に対応しており、買って来たUSBメモリをパソコンに差し込めば、ドライバが自動でインストールされ、そのまま使用することができます。

USBメモリをパソコンに差し込むと「リムーバブルディスク」や「フラッシュディスク」、「フラッシュメモリ」等という名称でパソコンに認識されます。一般のフォルダにファイルを保存するのと同じ感覚でファイルの保存、削除などの操作を行うことができます。その使い勝手の良さから、すっかりフロッピーディスクに取って代わりました。

最近では大容量化が進み、32GBも普通になりつつあります。また、海外メーカー製では、64GBや128GBの製品もあるようです。

BCNランキングを見てみると、2GB、4GBのものが価格的にもこなれた感じで売れ筋のようです。

また、CD-ROMの代わりにUSBメモリにアプリケーションを保存して販売するメーカーが現れるなど、その用途も多様化してきています。

USBメモリと個人情報保護

非常に使い勝手のよいUSBメモリですが、時には情報漏えいのリスクを帯びた危険なアイテムとなります。

個人情報や顧客情報を含んだファイルを保存したUSBメモリを紛失したり、盗難に遭ったりするなどのケースや、悪意のある内部の人間がUSBメモリに個人情報や顧客情報を保存して持ち出し悪用するといったケースがあります。

個人情報保護の対策を取ることが当たり前という

風潮になりましたが、それでも情報漏えいは起ってしまいます。漏えいの経路として、第1位に紙媒体(56.0%)、第2位にWeb(11.7%)、第3位にUSB可搬媒体(9.9%)が挙げられています(※: NPO日本ネットワークセキュリティ協会「2008年情報セキュリティインシデントに関する調査報告書」より、漏えい件数の割合)。

また、漏えい事例1件あたりの漏えい人数(平均値)をみると、第1位がWeb(11,255人分)、第2位がUSB可搬媒体(5,595人分)、第3位が紙媒体(5,593人分)となっており、1個のUSBメモリから大量の個人情報が漏れてしまっていることが分かります。

内部犯行のケースは人的要因なので複雑な対策が必要ですが、紛失などのケースについては、万が一、紛失してしまっても、USBメモリにセキュリティ対策を施すことでリスクを軽減することが可能です。

USBメモリのセキュリティ機能

上記のような現状から、最近はセキュリティ機能を搭載したUSBメモリが増えてきました。

主な機能として(1)パスワードロック、(2)暗号化があります。

(1)パスワードロック … USBメモリにパスワードを設定することで所有者以外の不正アクセスを防ぎます。

(2)暗号化 … ファイルに暗号化を施すことで、何らかの方法でパスワードを回避されてもファイルを読み取ることができなくなります。暗号化にはソフトウェア方式とハードウェア方式とがあり、製品ごとに違います。お勧めはハードウェア方式です。

また、USBメモリにストラップを付けることで、紛失防止対策になります。

セキュリティ機能が搭載されたUSBメモリは価格がやや高めですが、万が一のことを考えれば、それほど高額ではないはずですよ。

昨年からUSBメモリに感染するコンピュータウイルスが急増するなど、USBメモリのセキュリティの確保は急務となってきています。

適切な対策を施し、安心、安全に使用できるよう心がけましょう。

編集後記

いよいよ夏本番ですね。ETC搭載車を対象にした高速道路の1000円乗り放題、お盆期間中は木・金曜も行うとのことで、大渋滞になることが予想されています。車で旅行する方は事前の渋滞対策が必要ですよ。渋滞中の情報源と言えばラジオやテレビ、あるいは携帯電話でのネット検索でしょうか。最近流行のミニノートパソコンにデータ通信端末を繋げて外出先でもインターネットができると便利です。事故に注意して楽しい夏を過ごしましょう!(本田)